

・解答

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	当座預金 有価証券売却損	3,250,000 250,000	売買目的有価証券	3,500,000
2	備品	300,000	当座預金 未払金	60,000 240,000
3	受取利息	20,000	未収利息	20,000
4	消耗品	80,000	現金	80,000
5	商品券 現金	60,000 40,000	売上	100,000

・解説

1. 有価証券の売却に関する問題です。有価証券の売却損益は、有価証券の帳簿価額と売却価額との差額により算定しますので、機械的に金額を当てはめていってください。慣れるまでは以下のように 1 つ 1 つ段階を追って考えていくほうが分かりやすいと思います。

- ・有価証券の帳簿価額 = @700 円 × 5,000 株 = 3,500,000 円
- ・有価証券の売却価額 = @650 円 × 5,000 株 = 3,250,000 円
- ・差額 = 250,000 円 (帳簿価額 > 売却価額・・・売却損)

慣れてきたら、電卓だけで解答の仕訳を導き出せるようにしておくといいでしょう。僕が実際に解く際に電卓に打ち込んだキー順序を載せておきますので、まずは同じような手順で練習してみてください。

5,000

×

650

M+ → (借方に (借) 当座預金 3,250,000 と書く)

5,000

×

700

M- 

→ (貸方に (貸) 売買目的有価証券 3,500,000 と書く)
------------------------------------

RM 

→ (借方に (借) 有価証券売却損 250,000 と書く)
---------------------------------

有価証券の売却に関する問題は、第 102 回の間 5や第 110 回の間 1、第 116 回の間 5、第 123 回の間 4でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。

2. 固定資産の購入に関する問題です。問題文の「**残額については毎月末の 8 回分割払いとした**」という部分に少々惑わされた方もいらっしゃるかもしれませんが、これはただの後払いを表しているだけです。未払金勘定で処理すれば何の問題もありません。

なお、当該分割払いの債務は、商品売買取引以外で発生した債務ですので、買掛金勘定を使わないように注意してください。

- ・商品売買取引に伴い発生した債権・債務→売掛金・買掛金
- ・商品売買取引以外で発生した債権・債務→未収金・未払金

有形固定資産の購入に関する問題は、第 100 回の間 5や第 101 回の間 4、第 106 回の間 1、第 109 回の間 3、第 113 回の間 3、第 116 回の間 2、第 123 回の間 3でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。同じような形式で繰り返し出題されていることがお分かりいただけると思います。

3. 再振替仕訳に関する問題です。第 1 問ではあまり出題実績がない分野ですので、面食らった方がいらっしゃるかもしれませんが、仕訳自体はいたって簡単なものです。前期末に切った仕訳を考えて、その逆仕訳を切ってやればいいだけです。

☆参考・前期末に切った仕訳

(借) 未収利息 20,000 / (貸) 受取利息 20,000

★解答・再振替仕訳

(借) 受取利息 20,000 / (貸) 未収利息 20,000

第 100 回以降の試験の第 1 問で再振替仕訳が問われたのは本問だけです。再振替仕訳に関しては「**前期末に切られた仕訳を考える→その逆仕訳を解答する**」という流れを押さえておけば、それ以上の対策をする必要はないと思います。

4. 消耗品の購入に関する問題です。本問は問題文に、「当店では文房具については決算時に棚卸を行い、当期の使用額を費用に振り替える方法をとっている」とありますから、消耗品購入時には【消耗品】勘定を使って処理しているということが分かります。

☆仮に、決算期末において 5,000 円の未費消分があった場合の仕訳

(借) 消耗品費 75,000 / (貸) 消耗品 75,000

ではついでに、消耗品を購入時に「費用計上」する場合の仕訳も確認してみましょう。購入時に資産計上した場合と大きく異なる点は、決算期末に消費していない分を資産計上する点です。仕訳は以下のようになります。

☆消耗品取得時の仕訳

(借) 消耗品費 80,000 / (貸) 現金など 80,000

☆決算期末において 5,000 円の未費消分があった場合の仕訳

(借) 消耗品 5,000 / (貸) 消耗品費 5,000

ポイントは、決算時に振り替える額が未費消分なのか既費消分なのかという違いです。簡単にまとめておきますので、この論点についてはこの場で理解するようにしてください。

～まとめ～

■消耗品を購入時に資産（消耗品勘定）処理する場合

購入時・・・支出額を消耗品勘定で認識

決算時・・・既費消分を消耗品費勘定で認識

■消耗品を購入時に費用（消耗品費勘定）処理する場合

購入時・・・支出額を消耗品費勘定で認識

決算時・・・未費消分を消耗品勘定で認識

消耗品に関する問題は、第 101 回の問 5でも出題されていますが、第 101 回のほうは「購入時に費用処理&決算時の仕訳」を問う問題で、本問のほうは「購入時に資産処理&購入時の仕訳」を問う問題ですので、必ずセットで押さえるようにしてください。消耗品に関してはこの 2 問が解ければ十分です。

5. 商品券の授受に関する問題です。商品券は、発行時に「商品券」勘定を**負債の部に計上**し、当該商品券の返済義務が消滅したときに、反対仕訳を切ることになります。

☆商品券発行時の仕訳・・・①

(借) ————— \*\*\*\* / (貸) 商品券 \*\*\*\*

☆商品券の返済義務消滅時の仕訳・・・②

(借) 商品券 \*\*\*\* / (貸) ————— \*\*\*\*

一方、他店発行の商品券に関しては、受け取った際に「他店商品券」勘定を**資産の部に計上**し、当該商品券の受取権利が消滅したときに反対仕訳を切ることになります。

☆他店商品券受取時の仕訳・・・③

(借) 他店商品券 \*\*\*\* / (貸) ————— \*\*\*\*

☆他店商品券の受取権利消滅時の仕訳・・・④

(借) ————— \*\*\*\* / (貸) 他店商品券 \*\*\*\*

ちなみに、本問の問題文の「**代金のうち 60,000 円は当店発行の商品券で受け取った**」は②に該当します。

商品券に関する問題は、第 103 回の問 4や第 104 回の問 3、第 114 回の問 1、第 120 回の問 2、第 124 回の問 1でも出題されていますが、本問（商品券の授受）と第 114 回の問題（商品券の精算）が解ければ、簿記 3 級の商品券に関しては十分だと思います。